

めぐみイエス・キリスト教会

2023年10月1日(日)第一主日礼拝

午前10時より

週報「通算第676号」



2023年標題聖句

第 I ヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌45「十字架の血に」	p. 64
【交読文】	No.35 詩篇第110篇	p. 907
【賛美Ⅱ】	新聖歌458「光の高地に」	p. 734
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.1「ラザロ」	
【聖書朗読】	ルカの福音書2章1節～20節(新約p. 110上段)	
【礼拝説教】	《クリスマスの本当の意味とは?》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

※本日の聖書箇所(ルカの福音書2章1節～20節)

2:1 そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストゥスから出た。

2:2 これは、キリニウスがシリアの総督であったときの、最初の住民登録であった。

2:3 人々はみな登録のために、それぞれ自分の町に帰って行った。

2:4 ヨセフも、ダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。

2:5 身重になっていた、いいなずけの妻マリアと共に登録するためであった。

2:6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリアは月が満ちて、

2:7 男子の初子を産んだ。そして、その子を布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。

2:8 さて、その地方で、羊飼いたちが野宿をしながら、羊の群れの夜番をしていた。

2:9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。

2:10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。見なさい。私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。

2:11 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。

2:12 あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つけます。それが、あなたがたのためのしるしです。」

2:13 すると突然、その御使いと一緒におびただしい数の天の軍勢が現れて、神を賛美した。

2:14 「いと高き所で、栄光が神にあるように。地の上で、平和がみこころにかなう人々にあるように。」

2:15 御使いたちが彼らから離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは話し合った。「さあ、ベツレヘムまで行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見届けて来よう。」

2:16 そして急いで行って、マリアとヨセフと、飼葉桶に寝ているみどりごを捜し当てた。

2:17 それを目にして羊飼いたちは、この幼子について自分たちに告げられたことを知らせた。

2:18 聞いた人たちはみな、羊飼いたちが話したことに驚いた。

2:19 しかしマリアは、これらのことをすべて心に納めて、思いを巡らしていた。

2:20 羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

●ポイント1.「ベツレヘム(エルサレムの南8キロの町)」とは？

※ミカ書5章2節「紀元前742年～686年頃の預言者」(旧約p.1586下段)

◎先週の礼拝メッセージ【ザカリヤの賛歌】

《御使いガブリエルはザカリヤに言いました。「見なさい。これらのことが起こる日まで、あなたは口がきけなくなり、話せなくなります。その時が来れば実現する私の言葉を、あなたが信じなかったからです。」

ルカは、口が聞こえなくなり話せなくなったと書き記していますが、尾山先生は、ザカリヤは聾啞者にされたと言われています。つまり、話せなくなっただけでなく、耳も聞こえなくなったと言うことです。

ザカリヤは全くの沈黙の世界に置かれたのです。そうなりますと、彼は神様と交わり、祈ることしか出来なくなってしまうことになります。

ザカリヤが書き板に「ヨハネ」と書き記した時に、彼は元に戻ります。そして、聖霊に満たされ、全身全霊を持って神様を誉め讃えたのです。それが、「ザカリヤの賛歌(ベネディクトゥス)」です。

彼の賛美は、大きく分けると二つの部分から成っています。アブラハムとの約束を果たし、神の民を救って下さる神様への賛美と、その救い主に先んじて、今生まれたヨハネの使命についての預言です。

神様はモーセを通して、このように言われました。

『私は彼らの同胞のうちから、彼らのためにあなたのようなひとりの預言者を起こそう。私は彼の口に私の言葉を授けよう。彼は、私が命じることを皆、彼らに告げる。』と。そして、ヨハネへの預言と続きます。イザヤ書には、こう預言されています。

『40:3 荒野で叫ぶ者の声がある。「主の道を用意せよ。荒れ地で私たちの神のために、大路をまっすぐにせよ。』と。

伝承では、ヨハネが幼いうちに、ザカリヤとエリサベツは召され、孤児となったヨハネは、ユダヤの荒野にある「エッセネ派」の修道院に引き取られ、ラビとして立つことが許される三十歳になるまで、そこに留まっていたと伝えられています。時が満ちる必要があったのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、10月8日(日)です。通常通り行ないます。